

ファンド概況

基準価額	9,183円	純資産総額	533百万円
設定日	2008年4月24日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年2月25日		

期間別騰落率(%)

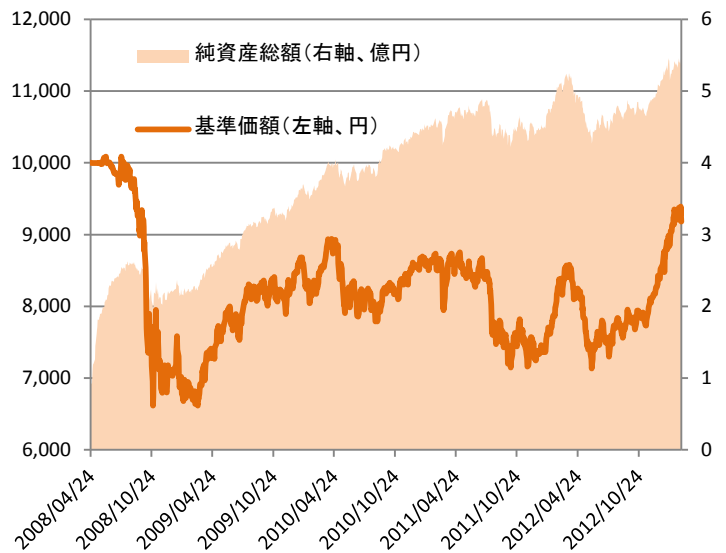
1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
0.61	13.51	19.34	10.36	11.80	-8.17

分配金(円)

直近3期を表示

3期 ('11/2/25)	4期 ('12/2/27)	5期 ('13/2/25)	累計
0	0	0	0

基準価額と純資産総額の推移



運用コメント

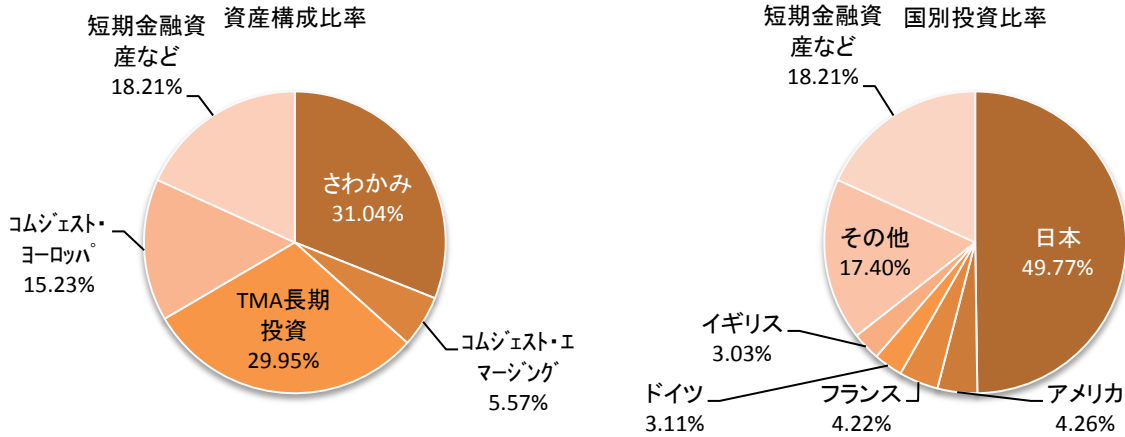
2月の日経平均株価は、3.7%上昇しました。これは、先進国の中でトップクラスの上昇となりました。日本では引き続き、アベノミクスによる景気回復期待が先行しています。2月下旬に日銀の次期総裁に積極的な金融緩和を主張する黒田東彦氏の名前が出ると、株式市場は上昇に転じました。日銀のスタンスは伝統的にインフレ警戒を旨としていますが、日米欧共に成長路線を鮮明にした事を市場は好感しました。しかし、既に先進国の金融緩和は未踏の領域に入っており、行き場を失ったマネーが相場を押し上げているとの見方も根強くあります。

世界の株式市場の代表的な指標であるMSCIワールド指数は、円換算で1%強上昇しました。一方、為替市場でも円ドルが1%弱の円安、円ユーロは1%強の円高傾向となり、先月までの急激な円安と株高に一服感が出てきました。債券市場でも、米国の代表的な長期金利である10年国債の利回りは、1.8%台に下落しました。

2月のらくちんファンドの運用結果に関しましては、組入れファンドの中で最大の値上がりとなった「さわかみファンド」への組入れが功を奏して+0.61%の上昇となりました。

今後の運用に関しましては、再び揺れ始めたイタリアを中心とした欧州経済や一時に比べて成長が鈍化している中国、ブラジル等の新興国も気がかりです。市場は少しずつインフレを意識した展開となっていますが、依然として、金利が低下するデフレの要素も強く見られます。しばらくは強弱感に対立した展開を予想しており、世界の株式市場は底値を探りながら、次の展開に移行する時期に来ていると見ています。したがって、当面は収益の回復が強い日米を中心とした組入れを継続しながら、世界経済の動向を見極めて、慎重に判断したいと考えています。現金比率は15～20%程度を維持する方針です。

ポートフォリオの状況



らくちんファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率

(組入銘柄数:268銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入比率	組入れファンド名
1	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	1.58%	さわかみ
2	キーエンス	ファクトリーオートメーション用センサの製造	1.35%	TMA長期投資
3	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	1.30%	さわかみ
4	セブン銀行	セブン&アイHD傘下。コンビニATM事業最大手	1.08%	TMA長期投資
5	L'OREAL	フランスの世界最大の化粧品会社	1.05%	コムジエスト・ヨーロッパ
6	SAP AG	世界第3位のアプリケーション・ソフトウェア会社	1.04%	コムジエスト・ヨーロッパ
7	三菱重工業	船舶、航空など総合機器メーカー	0.99%	さわかみ
8	本田技研工業	二輪・四輪・汎用機を製造する世界的メーカー	0.96%	TMA長期投資
9	エア・ウォーター	総合ガス企業	0.96%	TMA長期投資
10	BG GROUP PLC	天然ガス事業主体のエネルギー企業(英国)	0.93%	TMA長期投資
11	ミスミグループ本社	機械加工製品の企画・販売	0.93%	TMA長期投資
12	NOVOZYMES A/S-B SHARES	産業用酵素製品を供給(デンマーク)	0.90%	TMA長期投資
13	浜松ホトニクス	光関連の電子機器を製造・販売	0.87%	TMA長期投資
14	花王	洗剤、トイレット、化粧品など製造	0.86%	さわかみ
15	リンナイ	給湯、厨房、空調等の各機器を製造	0.84%	TMA長期投資
16	シマノ	バイシクル、釣具、ボート等を製造	0.84%	TMA長期投資
17	ESSILOR INTERNATIONAL	フランスの光学製品メーカー。日本ではココンと合併	0.84%	コムジエスト・ヨーロッパ
18	INDITEX	スペインのアパレルメーカー『ZARA』など	0.81%	コムジエスト・ヨーロッパ
19	デンソー	トヨタグループに属する自動車部品メーカー	0.72%	さわかみ
20	HEINEKEN NV	世界第3位のビール会社	0.70%	コムジエスト・ヨーロッパ

ファンドの特色

①「長期投資」を実現するためのファンドです。

- ・長期的に安定した運用が行われているファンドであり、かつ将来にわたってもその運用が継続される可能性が高い複数のファンドを厳選します。
- ・運用にあたっては、景気変動のサイクルに沿った、アセットアロケーションの切り替え(現預金と組入れファンドの投資比率の変更)を大前提とし、景気サイクルのダイナミズムを先取りする形で、資産配分を行っていきます。
- ・運用にあたり、特定のベンチマークを設けることはしません。また、短期的な市場変動に惑わされることなく、長期的な資産の成長を目指して運用を行います。

②投資対象ファンドを厳選します。

- ・主として日本株、海外株等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
- ・ファンドの運用方針が明確で、一貫性があることを重視します。
- ・運用資金が安定的に推移し、顧客から継続して支持を受けていることも重要な条件です。
- ・基準価額の推移が運用方針と整合性を持っているかも重要な判断基準です。

③日本株および海外株へ広く投資します。

- ・投資対象であるファンドを通じて、先進国から新興国まで幅広く世界の株式を中心に投資します。
- ・国や企業の高い成長性を世界に求める一方で、グローバルな成長による恩恵を受ける日本企業へも日本株ファンドを通じて、積極的に投資を行います。
- ・日本株と海外株の投資比率は50:50を当面の運用目標としておりますが、相場環境等により、この比率は大きく変わることがあります。

④ファンド・オブ・ファンズの仕組み

- ・個別の株式、債券等に直接投資するのではなく、株式や債券等に投資している複数の投資信託に投資します。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください>

ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	お申込日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じた額
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.945%(税抜き0.90%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.6±0.3%(概算)
その他費用・ 手数料	監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等 *これらの費用は運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

業務管理部からのお知らせ

【ご登録内容の変更はございませんか？】

もうすぐ春ですね。お引越しなど新生活の準備で何かと忙しい方もいらっしゃると思います。ご転居等によりご住所、ご連絡先が変更となった場合は、弊社への変更手続きが必要となります。「登録事項変更届」を弊社ホームページまたはお電話でご請求いただき、必要事項をご記入のうえご返送ください。

なお、メールアドレスのご変更は、弊社ホームページまたはお電話でもお手続きを承ります。

<ホームページの場合>

「各種お手続き」→「メールアドレス・レポート受取方法変更」フォームよりご連絡ください。

<お電話の場合>

「メールアドレスが変更となった」旨をお申し出ください。

【毎月つみたてスケジュール】

引落開始月	新規申込・引落口座 変更締切日	引落金額変更・ 中止締切日	引落日	約定日
平成25年4月	受付終了	3月25日(月)	4月5日(金)	4月17日(水)
平成25年5月	4月3日(水)	4月19日(金)	5月7日(火)	5月17日(金)

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止については、お電話でも承っております。その際、ご本人様確認(氏名、住所、現在の契約内容等)をいたしますので、予めご準備をお願いいたします。

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部 (受付時間: 平日9時～17時)
東京: 03-3222-1220 / 大阪: 06-4790-6200 / E-mail: gyoumu@clover-am.co.jp

当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

今後のセミナーのご案内

<p>3月15日(金) 19:00~21:00</p>	<p>長期投資で未来を語ろう 当社代表 宮内鋭</p>	<p>【会場】 当社 会議室 東京都千代田区三番町5-37 三番町葵ビル 【費用】 無料 【定員】 10名</p>
<p>4月12日(金) 18:30~20:30</p>	<p>第65回 なにわでひろげよう!長期投資の輪!! 東京海上アセットマネジメント投信 平山賢一氏 当社代表 宮内鋭</p>	<p>【会場】 大阪中央公会堂 第6会議室 大阪市北区中之島1-1-27 『淀屋橋』駅 徒歩4分 【費用】 無料 【定員】 16名</p>

当社が運用する各ファンドの運用方針や、みなさまがお持ちの素朴な疑問など、お気軽にご質問ください。お待ちしております。

【お申込み・お問合せ】TEL 03-3222-1220 または gyoumu@clover-am.co.jp

クローバー「はんぶん」コラム

◆運用の本質？

昨年末からの株価の上昇により、当社のファンドも基準価額が上昇して、解約が普段より多くなっています。

今回の解約は、毎月つみたてをされているお客さまではなく、設定当時(2008年春)にスポットで購入いただいた方が「ようやく水面上にきたので売っておこう」という傾向があると思います。プラスで解約されたのであれば、当方としては一安心と言いますか、もっとお役に立てたのではないかと不甲斐無く思うこともあります。プラスの幅をより大きくするために、また、どう市場(世界経済)と向き合えばいいのか?について、改めて考察したいと思います。

- 1.運用中の価格は、上がっても下がっても良い
- 2.市場(世界経済)は、個人の予定・人生設計とは無関係

1については、算数の世界ですが、下がった時に買い増して取得元本を下げ、同時に口数を増やすことは運用における目標(ゴール)に、より早く到達することになります。つまり、上がればその分果実が殖える、下がればその分目標が近づくということで、運用中はどちらにしても良いものだと考えます。補足しますと、運用は利回りよりも投資額に集中するべきとも考えます。以下、簡単なサンプルを挙げてみます。

Aさん	投資額50万円	利回り100%	果実=50万円
Bさん	投資額300万円	利回り30%	果実=90万円

このように、Aさんの利回り100%というかなり良い成績であっても、投資額が大きいBさんより果実は少なくなります。また、1回ポツキリの買付けではなく、「毎月つみたて」のように定期的買い付けすることで、相場に沿った取得元本になっていく傾向がありますので、長期の運用には適した仕組みと言えます。

2については、けっこうみなさん陥りがちと言いますか、都合良く?考えすぎていることがありますが、みなさんの人生設計に合わせて市場(世界経済)は動いていません。やはり目標額を定めて、達成したらしっかりと利益を確定させておくことが肝要です。

以上2点、極めて当たり前のことなのですが、「元本割れのリスク」ばかりに目が向きがちなので、心にも資金にも余裕をもって運用していただけたらと思うのです。